

医療ケアワーカーは病院でも就職できる

医療ケアワーカーの資格を取得した人材は、高齢者や障害者が利用する通所施設や入所施設において求められています。超高齢社会では医療ケアワーカーが不足しているため、就職率は100%です。しかし、高校卒業後、3年間の養成校において医療ケアワーカーの資格を取得した場合、すぐに高齢者施設において医療的ケアを行うのは不安であるという方も少なくはありません。

実は、医療ケアワーカーは、医療施設（病院）においても仕事に就くことが可能です。特に、回復期リハビリテーション病棟で多数の求人があります。また、急性期病院や地域包括ケア病棟においても就職可能です。もちろん、看護助手としての勤務ではなく、独立した職業として認められています。看護師の養成校では疾病に関する教育が主体で、障害や自立支援についての教育はほとんど行われていません。その点、ケアワーカー（介護福祉士）の養成校では障害への対処法や自立支援の方法に関する講義と実習が多く行われています。そのため、回復期リハビリテーション病棟では、疾患への対応は看護師、障害への対応はケアワーカーが中心となってケアを行います。

医療施設の中には、医療ケアワーカーを目指す学生に対して、奨学金を提供してくださる大病院も多数見受けられます。養成校を卒業後にはその病院への就職も約束されている訳ですので、それだけ医療ケアワーカーが必要とされているということです。

医療施設において数年間の医療的ケアの実践を積んだ後、通所施設や入所施設に異動した場合には、介護系の責任者（課長や主任）として迎え入れてもらえると思います。

回復を支える介護福祉士（ビデオインタビュー）：

https://www.youtube.com/watch?v=S-y_xDLiiY4

医療の知識がふえる（ビデオインタビュー）：

https://www.youtube.com/watch?v=BQ_AQE-591w

ホームページに戻る：<http://ojrat.gl.xrea.com/>